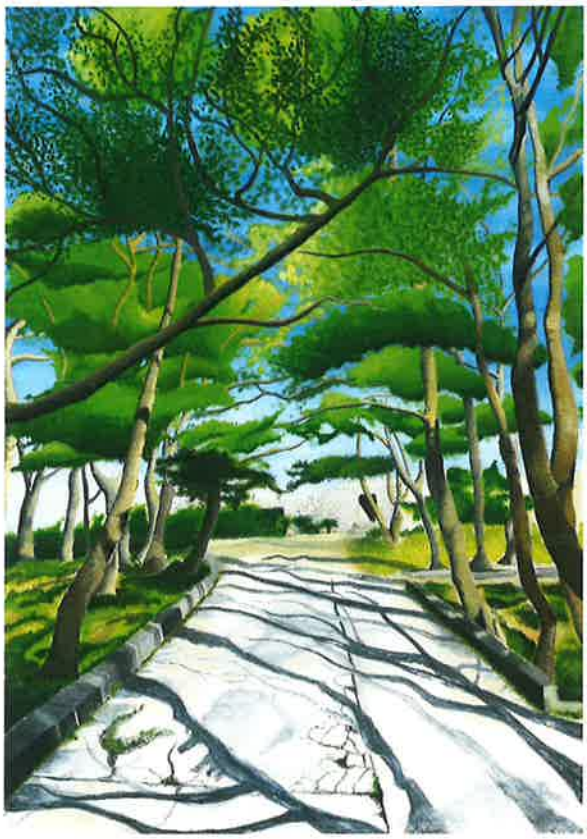
# 第3次読谷村地域福祉計画

子どもからお年寄りまで、皆で支え合い、共に生きるむらづくり

一人ひとりが、何か一つ“自分のできることをできる時にできる範囲で”

## 【概要版】



座喜味城跡（作者：前田采音）

福祉のむらづくりを進めるにあたっては、子どもから高齢者まで障がいなどの有無にかかわらず、全ての方が住み慣れた地域において、人としての尊厳を持ち、その人らしい自立した生活を送ることができる地域社会の形成が必要となります。また、一人ひとりが地域福祉推進の担い手としての自覚を持ち、困っている人に対し自らのできる範囲で互いに支え合うことが大切です。

“人と人との繋がり”や“互いの支え合い”が本村の地域づくり・むらづくりに大いなる成果をもたらしてきたことを礎に、地域に暮らす誰もが繋がり、支え合う地域社会を読谷村の地域福祉のあるべき姿とします。

令和3年3月

読谷村